

令和2年度 第1回

交野市水道事業経営審議会

議事要旨

令和2年6月25日開催

交野市水道事業経営審議会（第1回） 議事要旨

開催日時	令和2年6月25日（木）15：30～
開催場所	交野市星の里浄水場 会議室
出席委員	後藤会長、市岡副会長、谷野委員、森本委員、山崎委員、吉信委員、代永委員、冨田委員（全員出席）
傍聴者	なし
次第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 委嘱状交付 3. 市長挨拶 4. （1）交野市水道事業経営審議会条例について （2）会長及び副会長の選任について 5. 諮問 6. 議事 （1）交野市水道事業及び水道ビジョンについて （2）交野市水道事業経営の現状分析について 7. その他 8. 閉会
資料	次第 諮問書 資料1 交野市水道事業経営審議会委員名簿 資料2 交野市水道事業経営審議会条例 資料3 交野市星の里浄水場パンフレット 資料4 交野市水道ビジョン（冊子及び概要版） 資料5 交野市水道事業経営の現状分析について 資料6 水道に関するお客様アンケート調査 結果報告書 資料7 審議会スケジュール
所管	交野市水道局 総務課

議事概要
<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 事務局より、開会の挨拶 2. 委嘱状交付 市長より、各委員へ委嘱状を交付 3. 市長挨拶

市長より、交野市水道事業経営審議会開催の挨拶

4. (1) 交野市水道事業経営審議会条例について
事務局より、交野市水道事業審議会条例について説明

4. (2) 会長及び副会長の選任について

委員より、事務局側に会長及び副会長の推薦を一任したい申し出があり、委員全員の同意を得た。

事務局側より、会長に摂南大学経済学部教授の後藤委員、副会長に交野市区長会会長の市岡委員を推薦したい旨の申し出があった。結果、委員の互選により、後藤委員が会長に、市岡委員が副会長に選任された。

5. 諮問

市長より、交野市水道事業経営審議会における諮問の実施

— 以下、議事内容に沿って会長が進行 —

6. 議事

(1) 交野市水道事業および水道ビジョンの概要

事務局より、資料3「交野市星の里浄水場パンフレット」により交野市水道事業の概要について、資料4「交野市水道ビジョン」により交野市水道ビジョンの概要について事務局より説明。

— 以下、質疑応答 —

委員

私市ポンプ場と星の里浄水場、高低差はどのくらいか。

事務局

高低差は、正確な数字ではございませんが、30m程度。

委員

私市ポンプ場から導水ポンプを通して星の里浄水場に、また戻すポンプも稼働しているということか。

事務局

そうです。(ただし、戻す分については自然流下による。)

委員

交野市の自己水部分については、100%井戸水か。

事務局

そうです。自己水は100%深井戸から取水しています。自己水部分は全体の

7割で、地下水から取水して浄水場へ送り生物接触ろ過で処理して、再度ポンプ場に送っています。残りの3割については、大阪広域水道企業団の村野浄水場で浄水された水を、私市ポンプ場でブレンドし、配水しています。

交野市としては災害時のことも考えおり、2系統受水するのが災害に強い水道という考え方を基にしています。全て自己水の場合、有事の際に水が行き渡らない可能性が懸念されるため、2系統受水を考えています。

(2) 交野市水道事業経営の現状分析について

事務局より、資料5「交野市水道事業経営の現状分析について」により、交野市水道事業の経営状況について説明。

— 以下、質疑応答 —

委員

長い目で見えて安心安全な水を作るとなると、ある程度の料金に対して将来を見越して様々な手を打っていく必要があると思うが、以前に料金改定したのはいつ頃か。

事務局

平成12年度です。そろそろ約20年経ちます。

委員

水需要の減少は人口減少によるものなのか、節水によるものか、市民が水道水ではなく別の水を買っているからなのか、といった要因分析はしているのか。

事務局

過去6年間で13%水の量が減っています。大きな要因の一つは、大口利用者がなくなったこと。交野市に大阪府の警察学校があり、毎年4,000万円程度の売上がありました。また製麺工場についても4,000万円程度の売上があったので、1億弱がその一年内に減っているというのが大きな要因。戸数については、例年240~250件増えていますが、実際の水量は減っているという逆転現象が起きています。核家族化や節水器具の普及が進んでいることが要因。新築の家になればなるほど水の使用量が3分の2ぐらいで済んでしまっていると考えられます。戸数は若干増えているものの人口は少しずつ減少しているため、節水機器の普及、大口利用者がなくなってきたことを合わせると、将来的にはどんどん水需要が減っていくというのが、水道ビジョンを作った時に明らかになってきたことです。

委員

現行の水道料金体系では基本料金と従量料金で二部料金制を採用している。この逡増型と基本料金を近隣都市と比較した場合、どのような状況かを教えてほしい。

事務局

口径20mmのトン数別の使用量の比較表をみると、20m³ぐらいになると府下で少し高くなっています。30m³が一番使用されているボリュームゾーンですが、そのあたりになると大阪府下で15位ぐらいに安くなっている状況。大口で家族数が多い40m³ぐらいだと9番目に安いですが、この20～40m³あたりが交野市で多く使用されています。交野市では8m³まで基本料ですが、そこから超えて延びるごとに先ほどの逓増制により従量料金で少しずつ上がっていく。本市は大阪府内で比較的、基本料金が高く設定されていますが、その分水量を使ってもらえれば他市よりも安くなっていく料金体系となっています。今後、こういう状態で良いのかも含めて考えていかなければなりません。

委員

現状分析の32ページの参考資料3はかなり交野市の特徴が出ている。これについてこれまでの考えもしくは今後の考え方を教えてほしい。

事務局

基本水量は、本市の場合8m³ですが、そのボリュームは少ないですが、本市の水道利用者のボリュームゾーンの基本水量の料金体系が高く設定されてしまっている。基本料金と従量料金の割合が3対7程度ではありますが、基本料金を上げるとなると水道料金負担の底上げとなってきます。一方、大口利用者の料金を無作為に上げてしまえばいいのかということ、大きな企業が逃げて行ってしまう可能性もあります。将来的にはそのバランスをうまくとりながら料金体系を変える必要があると考えます。

委員

従量料金制について、アンケートの20ページを見ると、この「従量料金になっていることを知っていますか」という問いに対して、知らないという方が57.2%と多くて驚いた。交野市の方は定額で払っていると思っているのか。

事務局

手間とコストの関係もあり2か月に1回検針して2か月分を一度に請求しているうえ、上下水道併せて料金を請求しており、1か月分の水道料金は1回の請求額の4分の1以下ですが、それが見えにくく、請求自体わかりにくい構造になっている。この請求方法では自分の水道料金が毎月どのくらいなのかが読みとりにくい。

また、逓増制と基本料金という2つの区分に分かれていること自体がおそらく周知されていないことも大きいと考えます。

委員

問いは、使用量が多ければ単価が高くなることをご存じですかと聞いている。知らないと答えた人が60%近くいることに驚いた。いくら混ざっているとはいえ、2か月分は1か月に割ればいいだけの話だし、下水道料金もおそらく水道料

金とリンクしているはず。

事務局

水道局側も制度について深く周知をしてこなかったということが大きな反省点のひとつ。今後いろんな形でこういう体系になっていることを周知していくことが課題であると思っています。

委員

水道と下水道と両方セットで議論される事が多いと思うが、例えば下水道はすでにある程度、審議が終わってうまく出来ている場合はどうなるのか。

事務局

下水道でもストックマネジメントというほぼ同じ考え方で、需要予測の計画等を踏まえて今後の計画を策定中です。下水道課は、水道局の1～2年後の同じ道を歩いているという状況。水道局が先行しているが、同じ考え方に基づいて、下水道もほぼ同じような将来像を描いていかなければならないという課題に取り組んでいる最中です。

委員

実際に水道ビジョンが出来上がっている以上、ビジョンからあまりにも離れたあり方というのはなかなか難しい。水道ビジョンを基本として考えていくのであれば、水道ビジョン策定後1年程経過している今の段階で、具体的にこの部分は厳しいというところがあれば、それを議題にして一つずつ解決していく必要がある。現在2020年と水道ビジョンを作成して1年しか経過していないので、あり方とはこの水道ビジョンにある程度集約されているのではないか。

事務局

水道ビジョンはあくまで理想であり、できるかどうか別にして、これだけ耐震化しなければならないので、これだけ管路を替える達成度を示さないという側面が大きい。ところが、実際に管路の更新率も目標に追いついていない現状があります。将来的にこの審議の中でも現状で水道局が努力していることを話す一方で、それでも追いつかない部分については示す必要があります。その中でどうすれば経営を安定化して未来に続く水道を続けられるかが大きなテーマとなります。それに合う材料を水道局の方で提示し、今後の話し合いの題材にしていきたい。

7. その他

事務局より、資料6「お客様アンケートの結果報告書」について説明。また、資料7「審議会スケジュール」より今後の審議会スケジュールの予定を説明。

— 以下、質疑応答 —

委員

阪神淡路大震災の時に現地へ行ったが、水道はライフラインであり、被災地を見ても水が来なければ本当に大変なことがわかる。少しくらい高くても、きちんと耐震化を実施し、一日でも早く復興・復旧ができるような形の水道事業を目指すことが大切。

もっと投資しなければならないというPRが必要ではないか。投資の見返りとして安心安全を買ってもらうには、料金を適正にさせていただくという形があり方として大きくウェイトを占めていくと思う。そのあたりのPRのあり方について今後考えていかなければならないと思う。

委員

アンケート調査の5ページの一番下の部分で「少しくらい料金が高くなってもしかたがない」と答えた人が48.3%いる。そのまま飲んでも安心な水にどれだけ関心が高いかということの表れだと思うので、これを大事にしていかなければならないのではないか。意外な数字だったという反面、大事にしていかなければならないという意識を持った。

8. 閉会

以上